

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 位置	感染症(PT)	出典	概要
809	2007/12/19	70809	日本オル ガノン	フォトリロピンベータ(遺伝子組換え)	チャイニーズ ハムスター 卵巣細胞	チャイニーズ ハムスター卵 巣細胞	原産国不明 (ATCC登録 株)	製造工程	無	無	無			オーストラリアQueensland州で蚊が異常発生し、ロスリ バーウイルスが拡大している。通常は北部の熱帯地域で 優勢であるが、Brisbane南部における過去4週間の感染 者数は、昨年(2006年)同時期のほぼ450%である。 Queensland保健局の発表によると、過去4週間に報告さ れた感染者数は93例であった。
810	2007/12/20	70810	日本赤十 字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免 疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED- mail20070930.3228	オーストラリアQueensland州で蚊が異常発生し、ロスリ バーウイルスが拡大している。通常は北部の熱帯地域で 優勢であるが、Brisbane南部における過去4週間の感染 者数は、昨年(2006年)同時期のほぼ450%である。 Queensland保健局の発表によると、過去4週間に報告さ れた感染者数は93例であった。
												チクングニアウ イルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	チクングニアウイルス感染が大流行したレユニオン島の5 つの新生児医療部門で同ウイルスの母子感染を調べる ため、後ろ向き記述的研究を実施した。母親は出産時に 徴候があったか又は新生児が出生初日に発病したかを スクリーニングし、新生児38名を登録した。無症候の2名 を除き、全母親が周産期(分娩4日前～1日後)に症状が あった。全新生児が発熱(79%)、疼痛(100%)などの症状を 示し、脳脊髄液のPCR法は24名中22名で陽性であった。 高い罹患率の周産期母子伝播の可能性が初めて示され た。
												チクングニアウ イルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	チクングニア熱は2005年以来、大規模な流行がインド洋 諸島とインドから報告されているが、これまでヨーロッパ 地域内での蚊による感染伝播は発生していなかった。 2007年8月にイタリアのエミリア・ロマーニャ州ラヴェンナ 県衛生当局は異常に多数の発熱患者発生を検知し、臨 床・疫学調査を行った。血清学的検査およびPCR法でチ クングニア熱と確定された。更にヒトスジシマカからもPCR 法によりチクングニアウイルスが確認された。2007年9月4 日までに合計197名の患者が報告されている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008- 3014	ヨーロッパでの出血熱は主にPuumalaウイルス(PUUV)ま たはDobravaウイルス感染による。ドイツ南東部Lower Bavariaでハンタウイルス感染患者31名について、酵素免 疫測定法、免疫蛍光法、免疫プロット法による診断を行っ た。標準的検査による抗体のPUUV特異的タイピングがで きない症例が2、3あった。3名の患者の急性期血清から得 たPUUV RNAをRT-PCRを用いて増幅したところ、同地域 で捕獲したハタネズミから得たウイルス配列と非常に近 縁であることが明らかとなった。